

BIA-ALCL に関する調査（第 2 回）報告書

調査期間：2019 年 12 月 2 日より 2020 年 1 月 31 日

調査結果

全認定施設 622 施設中 235 施設（37.8%）より回答を得た。同一施設からの重複する回答については同一回答者からのものは回答日時の新しいもの、複数回答者からのものは両者を統合して判断した。2 県の施設からは回答が得られず、以下の数値から除いた。

① 検査について

1. 病理組織検査について、223/235(95%)の施設で外注を含めた検査は可能であり、最も低い地域でも 50%以上の施設で可能であった。
2. 穿刺液からのセルブロック作成について、173/235(74%)の施設で可能であった。2 県で対応可能施設がなかった。
3. フローサイトメトリのオーダーについて、180/235(77%)の施設で可能であった。2 県で対応可能施設がなかった。
4. 近隣の施設からの BIA-ALCL 疑いの症例の検査目的の紹介に対応できるのは 125/235(53%)であった。しかし、対応できると回答した 125 施設のうち 25 施設はその公開が難しいとの回答で、9 県では情報公開可能な検査の受入れ対応施設がなかった。
5. 固定検体の保存が可能 176/235 施設（75%） 回答済の全ての都道府県で対応可能施設あり。
凍結検体の保存が可能 110/235 施設（47%） 6 県で対応可能施設なし。

② 診断について（①の 1,2,3 でひとつでも検査可能と回答した 210 施設に調査）

1. フローサイトメトリの結果の解釈は 118 施設で可能であった。4 県で対応可能施設なし。
2. 病理組織診断とフローサイトメトリの結果を総合して診断することは 115 施設で可能であった。4 県で対応可能施設なし。

③ BIA-ALCL の診断のついた患者に対する病期診断は 177/235（75%）で可能であった。回答済の全ての都道府県で対応可能施設あり。

④ 治療について

Stage IIA までの患者の治療について

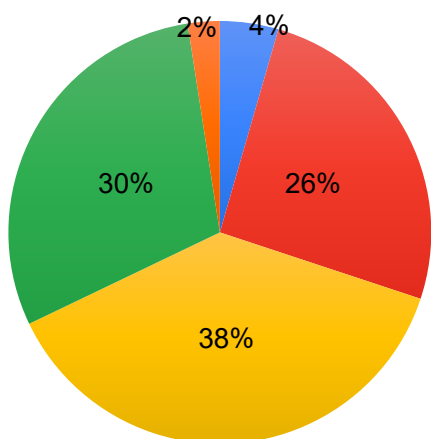
1. stage IIA までの患者に対する手術加療（被膜を含む全切除）は 184/235（78%）で可能であった。1 県で対応可能施設なし。
2. 他施設からの手術加療の受入れについて、138/235（59%）で可能であった。5 県で対応可能施設なし。

Stage IIB 以上の患者の治療について

1. 自施設に血液内科医がいるのは 152/235（65%）であった。3 県で対応可能施設なし。
2. 全身治療（化学療法）が可能なのは 146/235（62%）であった。5 県で対応可能施設なし。
3. 他施設からの全身治療の受入れが可能なのは 106/235（45%）であった。7 県で対応可能施設なし。

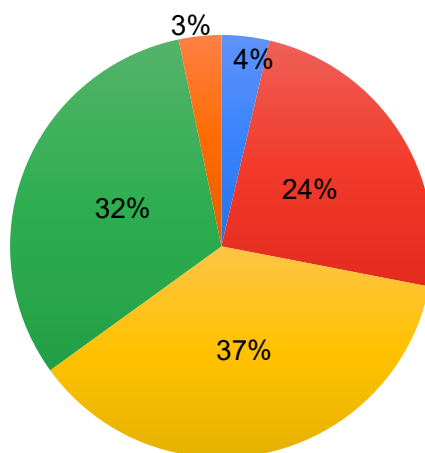
全国で治療施設を絞ることに関しては、手術治療、全身治療ともに「ある程度の地域で絞るべき」との意見が約 2/3 であり、「近くでできるところで行うべき」との意見が約 1/3 であった、これは自施設で対応可能であると回答した施設よりもやや少なめの結果であり自施設で対応できると考えている施設でも症例をまとめた方がよいと考える施設がある程度あると考えられる。

非進行例で手術施設を絞ることに
関して



- a. 1施設に絞るのが良い
- b. 地域ごとに絞るのが良い
- c. 都道府県（に近いレベル）ごとに絞るのが良い
- d. 近くでできる病院があればそこで行うのが良い
- その他・わからない

進行例で治療施設を絞ることに
関して



- a. 1施設に絞るのが良い
- b. 地域ごとに絞るのが良い
- c. 都道府県（に近いレベル）ごとに絞るのが良い
- d. 近くでできる病院があればそこで行うのが良い
- その他・わからない

検査および情報公開、手術治療、全身治療のすべてについて他院からの紹介に対応可能なのは68/235 施設(29%)であった。

青●：実施施設

黄●：検査まで受入れ対応可能施設

赤●：治療まで受入れ対応可能施設



分析・考察

前回調査よりも回答率が低下（53→38%）したが、全身治療まで紹介を含めて対応可能な施設が、68施設と各地域に存在することが確認できた。今後は検査に対応できない県を減らすこと、学会を通じた紹介システムについて検討していく必要がある。

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
BIA-ALCL 対策 WG